

# 生活指導便り

令和6年7月19日(金)  
江戸川区立鎌田小学校  
生活指導だより ②  
校長 石渡 靖  
生活指導担当 橋本

## 生活指導は学習指導の縁の下の力持ち！ 6月は、「ふれあい月間」でした。

かなり前になってしまいましたが、運動会が終わると目標がなくなったことによる生活面での乱れが出てくる場合があります。また、クラスに慣れてきたことにより甘えが出てくる時期でもあります。そんな時期は、友達との関係がくずれることがあるので、東京都では「ふれあい月間」として、子供たちの様子をしっかりと見守る活動を行っています。本校でも、子供たちに「友達とのかかわりのアンケート」を取り、一度だけたたかれたり悪口を言われたりしたというものを含め114件認知し、様子を聞き取り指導しました。また、継続的に様子を見ているものもあります。

今回は、お子様との関りについて考えるきっかけになればと思います。

### <いじめの定義>

児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している該当児童等と一定の人的関係にある他の児童等に行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

（いじめ防止対策推進法 第2条）

いじめを認知した場合、学級担任だけではなく学年主任や生活指導主任、養護教諭、スクールカウンセラーそして、管理職が協力・連携して解決できるように対応しています。

学校では、いじめや友達とのトラブルへ以下のような対応をしています。

未然防止・・・いじめをさせない・許さないという指導 クラスの仲間同士を認め合える雰囲気づくり

マイナスの意味の言葉を使わない指導 きまりやマナーを守る指導

早期発見・・・児童の様子を観察。しかし、早期発見は困っている本人が担任や学年、その他相談しやすい先生に訴えることが基本となります。下校後お家の方に訴えてきた場合には、「直接先生に言ってごらん。」とお子様と話してください。

早期対応・・・まず、該当児童やその周辺にいた児童から事実確認を行い、指導します。トラブルが起きたときに言ってくれればその日のうちに解決できることが多いです。

怪我があったり物の破損等があったりした場合には保護者のへの連絡を行います。子供への指導で納得させて下校している場合には連絡しないこともあります。

### お子様との関りについて

保護者の皆様は、日々ご多用の中子育てをされているので、下記のようなことを言われてもなかなか難しいと思われるかもしれません。夏休み中に少しでも時間がありましたらお子様と考えるきっかけにしてくださいと幸いです。

○きまりやマナーを守ろうとする意識を育む最初の基地は家庭です。

あいさつをすること。食事のマナーや好き嫌いなく食べること。自分のものを大切にすることや家族のものでも勝手に使わないことなど具体的に示せば山ほどあると思います。家庭では許されるものでも集団で過ごす学校では、許されないものがあります。他の人に対して嫌な気持ちにさせないことや迷惑をかけないようにすることは、人間関係のトラブルを減らし、互いに気持ち良く過ごすために必要不可欠なことです。学校で指導をしておりますが、最終的には家庭での意識付けが大切です。ダメなものはダメと伝えてください。

○ご家庭は子供の安全基地になっていますでしょうか。

家庭と学校（外）で子供の様子が異なるのは、当然のことです。できれば外の方がちゃんとしてほしいと思われることでしょうか。外でのトラブルがある場合は、家でお子様が安心して自分を出せていない可能性があります。甘えたりわがママが言えたりする空間にしてあげてください。忙しくてかまうことができないという思いがあると思います。そんな時には、テレビを一緒に見たり夕食の準備を一緒にしたり、できる範囲で時間を共有してください。そうすることで、お子様は自分のことを見てくれているという安心感を持つようになります。

○守ることが子供の成長の妨げになっていませんか。

「うちの子はうまく伝えられないんです。」そう言って、電話や連絡帳でトラブルを伝えてくださる場合があります。その場合は、ぜひ本人に「先生に話してごらん。」と伝えてください。困ったことがあったら、その時に話せるようにすることが自分を守ることにつながり、すぐに事実確認ができて解決できる可能性が高まります。時間が経てば経つほど事実確認が上手いかず指導しにくくなります。また、お子様は保護者の方が伝えてくれると分かると自分から教職員に相談しなくなってしまいます。<上記に心当たりがありましたら、改善してはいかがでしょうか。トラブルが減るはずですよ。>

学校は、それぞれの家庭のルールで育った子供たちが集団生活するので、けんかやトラブルがあっても当然です。子供の成長のためには、時にけんかやトラブルも必要だと考えます。もし起きてしまったときには、大きな問題（いじめ）に発展しないように学校と家庭が協力して解決していきたく思います。

### ○まとめ○

いじめが起きないように互いを認め合えるクラスづくりに、教員は力を尽くしています。これは、大人の世界でも難しいことです。相手を知るには、時にけんかやトラブルが必要だからです。

友達は英語で書くと Friend で「end」がついています。いつ終わりが来てもおかしくないということだと思います。だから、仲間 Family をつくれるように、時にぶつかりながら相手を理解できるようにしていくことが大切です。学校は、集団生活を学ぶ場でもあるので、みんな違うのは当然であり、だからこそ合わせる大切さや力を合わせたからこそ味わえる喜びや達成感を大事にしていきたく考えています。

